

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	独自の療育プログラムとそれに基づく技術をスタッフ全員が学び、共通認識を持って療育を行える環境にある
	内容	独自の療育プログラム「コロロメソッド(発達を促すプログラム)」とそれに基づく技術をスタッフ全員が学び、共通認識を持って療育を行える環境にある。同じ目標を持って一貫した対応を実施できることでスタッフによる対応の格差も少なくなり、利用する子どもの混乱を防ぐことができる。また、望ましくない子どもの行動に対してもSR(刺激と反応)分析を行い、共通意識を持って対応することができる。このことが職場での実地研修をしやすいよい雰囲気につながっている。
2	タイトル	子どもの発達を促す療育の場として、保護者と協働することができる
	内容	保護者も「コロロメソッド」の療育プログラムを学び、家庭での療育を実践している。当事業所を単なる「お預かり」の場として利用するのではなく、ともに療育する場として選ぶ保護者が大部分であることが子どもの発達につながっている。年に2回の個別支援計画面談だけではなく、日頃からノートのやり取りや送迎時の相談、アドバイスなどこまめな対応を重視して行っている。
3	タイトル	「静」と「動」の組み合わせによるプログラムで通所している子どもは、基本的な生活リズムを整えることができる
	内容	「静」と「動」の組み合わせによるプログラムで通所している子どもは1日通して高い意識水準を保ち、日中十分な活動をして、夜は熟睡するという基本的な生活リズムを整えることができる。1時間の歩行や1時間の作業(封入やハーブ製品作りなど)、室内でのダイナミックリズム(独自の集団音楽運動療法)などのプログラムの組み合わせにより、何をしてもよく分からない時間を作らずに頭と体をしっかりと使うことができるようにしている。事業所での活動によって帰宅後も落ち着いて過ごしやすいようにリズムを整えるという視点で支援を提供している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域ネットワークの連携強化による地域ニーズに応えていくことを課題としている
	内容	近隣の地区において療育講座を実施して、療育関係者との情報交換を行ったり、各種相談にも応じている。また、外部研修への参加や専門誌・業界の新聞などを購読して、福祉業界全体の動向などの情報を収集している。さらに関係機関との交流を通して、福祉業界の動向とコロログループの使命について日々検討を行っている。地域の相談支援事業所などとのネットワークはできている状況であるため、その繋がりをさらに強化して地域ニーズに応えていくことを目標としている。
2	タイトル	情報セキュリティに関して、より一層の管理とともに職員の意識向上を図りたい
	内容	WEBやパソコンの活用を積極的に行って情報の共有化とともに情報の有効活用を進めている。セキュリティに関しても規程を作成するなどの徹底を図っている。今後、標的型攻撃やランサムウェアなどの「外部脅威への対策」、情報漏えい防止や職員管理などの「人的対策」、ボランティア、実習生、見学者などを含めて個人のスマートフォンやタブレット端末活用に関わる「モバイル対策」について、個人情報保護の観点からより一層の管理とともに職員の意識向上を図っていくことが必要と認識している。
3	タイトル	活動のマンネリ化を打破するための新たな試みへの挑戦を期待したい
	内容	デイサービス事業の開始から2年が経過し、基本的なデイリープログラムが確立でき、子ども達も見通しを持って活動に参加できるようになってきた。その一方で活動のマンネリ化により子どもにスケジュールに対するこだわりが見られたり、いつもと同じことをしていたのでは意識水準が上がらないなどの問題も生じてきている。そこで法人内の同種他事業所との交流活動などの新しい試みを検討し、活動プログラムに変化を付けて行く必要性も見受けられる。